

第27回スポーツ・ボランティア・リレートーク レポート

2013年10月28日(月) 19時より21時

市民活動サポートセンター 第5会議室

参加者 20名

「仙台ベルフィーユの挑戦」

～ 仙台・宮城から日本のバレーを改革

講師 仙台ベルフィーユ監督 諸隈 英人 氏



【ベルフィーユの役割】

みなさん、こんばんは。まだ「おぼんです」という言葉がでなくてこちらの地域になじんでいないという気がします。ただし、一年半が過ぎたということでここでの生活に愛着をかんじてきているところです。

さて、いただいた本日のテーマの「仙台ベルフィーユの挑戦」という言葉ですが、被災地でもある県ということである意味ネガティブにとらえられることもあるのですが、私は仙台・宮城から新しいこと始めてみたい、日本のバレーボールをここから変えていきたいと思っています。現在のスポーツ界はピラミッド型でそこでよく言われる底辺という言葉に違和感をずっと覚えてきました。特に高校からの空白をなんとしても埋めたいと思っています。

実は宮城県はバレーをしている選手が多いのですが私たちの試合にはきてくれません。つまり自分にとって参考になる試合だけを見にくるわけで、試合会場にきて地元のチームを応援するという文化がことバレーボールにおいては宮城に限らず日本にはないことで、この点を変えてみたいと思ったのです。ぜひ仙台ベルフィーユというものを通して変えていきたいのです。監督というのは本来コートの中のことだけをやっていればいいと言えますが、それだけではもったいないとも思います。今年はジュニアアカデミーという教室でいろんな経験をしている子供達のレベルアップめざしています。理論を理解させて競技について教えていく。こうした活動によってピラミッド型から、子どもが大人になってからも観客として選手として指導者としてかかわっていける横型のバレー界になればいいと思います。



【現在取り組んでいること】

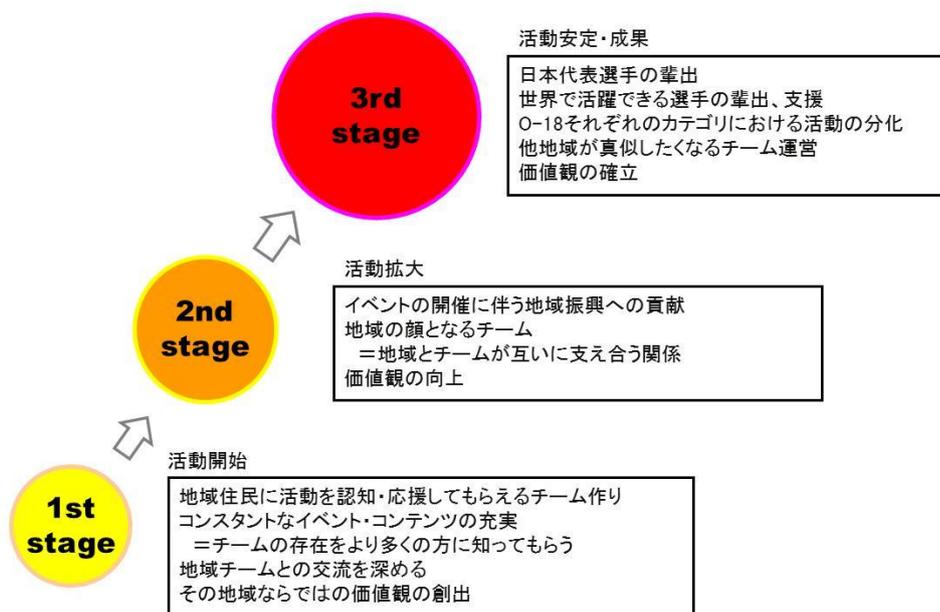
日本ではトップアスリートを育てるといって一部に能力のある選手の強化をするか、選手を増やしてその中から選抜するかが一般的です。しかし、現在世界で強豪国といわれるアメリカでは男女平等に奨学金をだすやり方をしています。そうすると未来への自己投資ということでバレーボールをやる選手が多くでてきます。ただ、大学以降はプロがないので女子では海外にでてゆくケースが目立ちます。一方男子はビーチバレーでやっている選手もいて賞金をえてそれで生活したりしています。

ただ、強ければそれでいいということではなく、バレーを伝えていくことも大切で、私たちは「する、支える、観る、応援する」というところまでやっていくべきだと思います。率直に言えば自分は監督としてチームに関わるのは最長でも五年が限度とっていて、そのあとは外側の事をやっていきたいのです。その段階ではある程度お金をかけてチームを強化することも大事にしたいと考えています。

今やろうとしているのが18歳以上の年代のバレー機会を増やすことです。現状では高校を卒業してもやれるのはごく少数なので誰でもやれる環境を作ることが大事になってきます。県でいえば二位、三位くらいの選手が悲惨で、子供たちの指導をする人をどう育てるかなのです。仙台はベルフィーユを観に来てくれる人が確実に増えています。この一年間子供達の指導をしたり、あちこちで話しをしてきたことの成果がでてきているのかなと思います。そもそも社会人の場合バレーボールは企業が中心でやっているのだからクラブやチーム、大会を作るといってありません。このあたりを少しでも変えていくことが必要だと思います。

【活動のステップ】

活動のステップ



お話ししてきたことの実現のための活動のステップですが、現在は1stステージです。まだ練習拠点としている富谷町でも認可が低いのが実情で、今後、ホームタウンパートナーとして富谷町と提携する計画があり実現すればやっと地域と一緒にすることができます。また、仙台市でも授業に参加させていただいたりしています。年間の収入はというと3千万くらいでしょうか。これ以上増やすためにはVリーグに依存しては無理だと思います。ベルフィーユが強くなれば地域の顔になります、バレー教室をやれば地域貢献というのではなく、本当の意味での地域貢献は実際に選手が人間として活動することが大切なのです。自分としては早くサードステージまでもっていきたいと思います。



【2016年までに実現させたい目標】

最後に2016年までに実現させたいことなのですが、まず「東北リーグの開催」です。とにかくホームゲームが少ないためやれるところだけでも2014年度にはやりたいと思います。残念ながら選抜にもれた子供達でひとつのチームを作り、各県代表として対戦する形を考えています。できれば毎年3月20日に18歳以下の大会を開催したいのですがその主催を仙台ベルフィーユとボランティアでやるというのはどうでしょうか。自分が監督になったのは選手たちをハッピーにしたいということでした。ある意味では自分もボランティアであり、思いはボランティア組織と近いものがあるためベースは自発的に、楽しくやるということなのです。まずは一緒に作ることをやってみたいので、逆にみなさんから何をバレーでやりたいかをお聞きしたいと思います。

【フリートーク】 参加者からの意見

- ※ ボランティアと運営する組織とは対等のもりだが、それでも多くは運営する組織からの依頼にボランティアが答える形になっている。今後、一緒に作るという考えはいいと思う。実際に長くサッカーや野球のボランティアを続けてきた人は一緒にチームを創ってきたという思いが強い。
- ※ チームの活動を分けると、トップチーム・指導普及・営業・広告などに分かれるが現在ボランティアがかかわっているのはトップチームのゲーム運営だけ、営業だけはチームがやるべきだか、それ以外でボランティアが関われることもたくさんあるのではないか。
- ※ サッカーでは主にゲーム運営をサポートするゲームボランティアと、チームの活動全体をサポートするクラブボランティアという考え方もあり、クリーニング店が選手のものを無料で洗濯したり、理髪店が選手のカットをやっているなどできることで支援する形もある。
- ※ 富谷町との関係の中でホームタウンはどこなのかを考える必要がある。練習場の確保の問題もあり、経営的にも総合型スポーツクラブの形も検討に値するのではないか。
- ※ 地域の大学や専門学校と連携することで、施設の活用や学生の専門知識をいかしたボランティア参加、大会運営への参加などが見込まれるのでは。
- ※ クラブ(チーム)をサポートするものなど、何ができるかをリストアップし優先順位を付けて取り組むことが大事。

(文責 泉田)